

新聞雜誌書籍卸賣業

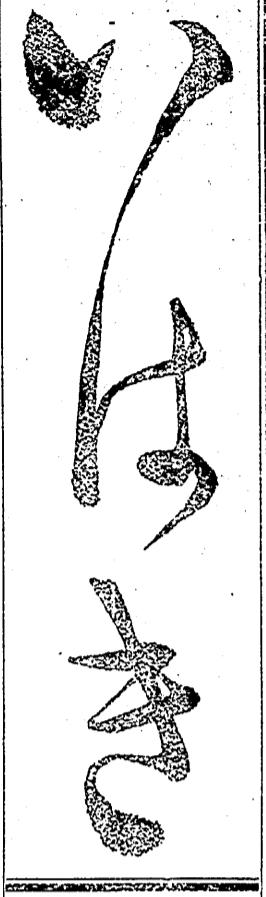
平陽社

東京市京橋區南八丁堀一丁目二十六番地
振替貯金口座七四四

五丁目 遠藤齒科醫院

小泉石棧營業所

磐城平町新川町
主任 白黒 土木 龜房 吉教



言論

警城中世評に就て

望月 子 寄

近來地方人士にして警城中學校を冷評する者頗多し此事に就て思ふ所あり、敢て一言を評者に呈せんと欲す。

警城中學校を設立したる者は誰ぞ、警城中學校に子弟の教育を托せる者は誰ぞ、將中學校を此地に設立せざるがため吾等は幾何の利益を得つゝあるを熟考せしめて、言ふ迄もなかり設立したる地方人士にして之が誰か、誰かの大責任も亦地方人の肩に掛れるもの、冷眼に看過すべきには非ず、果して悪風病瘵の此様に暗るならば、深く其淵源を究めて改善治癒の方策を立てざるべからず、輕率にも針小棒大の流言をなして、地方の耻辱を公衆に知らしむるが如きは、大に慎まざる可からざる事なり。

警城中學校を冷評すること實に驚くべきものあり、植竹校長は無能なり、部下教員も亦無能者のみなりと曰ひ、甚しきは植竹校長は精神病者に非ずやと迄酷評する者あり、試に反問して、さる無能者のみを學校に置き冷評惡罵をなさんよりは、校長教員等を訪問して其不心得を論じ、而して容れずんば知事に上申するも亦可ならずやと曰へば、斯の如きは吾等のなすべき事に非ずといふ、其無責任なること概ね此類なり。かゝる冷罵を遣はしうする者に限りて、學校を訪問して其内情を見實際を尋る等の事は更に、又毫も改善の方法を考へず、漫然喋々するなり。

評者自身には或は多少の興味もあらんか、なれども、斯の如き無責任なる批評のため、被評者の受くる迷惑不利益のいかなるか、かゝる少くも考慮されたいものなり。

如何なる人にも多少の過失は免れず、されば若し即人の過失を知らば進んで之に忠告するの親切心は何人にもあらざらん、然るに△△の親切心は單にかゝる冷評をなすに止まらざる、之を新聞に投書して況んや縣下に知らしめたる者すらあり、其投書家にも中學校を引在地なる半町の人多く、甚しきは嘗て此

雑文

離々集

正坊 生

△△は望む。神と語り、神と親しみ、神と遊ぶ。神と笑ひ、神と共に泣き、神と共に自然の主人となり、超自然の威力と實體に融合せん事を。敢て神の懷ろに休む事を。△△は望む。如上の威力の奴隷たる事を。△△は望む。如上の威力の奴隷たる事を。△△は望む。如上の威力の奴隷たる事を。

校に通學したるもの、或は中學校のために生活の半を支ふる某輩の如きあり、かく△△の恩義を負へる所に對しても、不親切、冷淡を極むるは眞に嘆すべし。

警城中學生は不品行にして新田町邊の料理屋にて見受くる事往々ありと曰ふ、評者も△△論争は無益なり。論究は有益なり、是れは叫ぶべき者にあらざる、求むべき者創るべき者ならざるなり。

△△論争は無益なり。論究は有益なり、是れは叫ぶべき者にあらざる、求むべき者創るべき者ならざるなり。

秋の雨の音に我胸の
思ひのこゝろかな
一つ一つの響のこゝろかな
世を恨み世を呪はむと立てる野に神の
瞳と星とを夜かな

秋の雨の音に我胸の
思ひのこゝろかな
一つ一つの響のこゝろかな
世を恨み世を呪はむと立てる野に神の
瞳と星とを夜かな

秋の雨の音に我胸の
思ひのこゝろかな
一つ一つの響のこゝろかな
世を恨み世を呪はむと立てる野に神の
瞳と星とを夜かな

秋の雨の音に我胸の
思ひのこゝろかな
一つ一つの響のこゝろかな
世を恨み世を呪はむと立てる野に神の
瞳と星とを夜かな

秋の雨の音に我胸の
思ひのこゝろかな
一つ一つの響のこゝろかな
世を恨み世を呪はむと立てる野に神の
瞳と星とを夜かな

秋の雨の音に我胸の
思ひのこゝろかな
一つ一つの響のこゝろかな
世を恨み世を呪はむと立てる野に神の
瞳と星とを夜かな

秋の雨の音に我胸の
思ひのこゝろかな
一つ一つの響のこゝろかな
世を恨み世を呪はむと立てる野に神の
瞳と星とを夜かな

秋の雨の音に我胸の
思ひのこゝろかな
一つ一つの響のこゝろかな
世を恨み世を呪はむと立てる野に神の
瞳と星とを夜かな

秋の雨の音に我胸の
思ひのこゝろかな
一つ一つの響のこゝろかな
世を恨み世を呪はむと立てる野に神の
瞳と星とを夜かな

第五回 五日 十五日 廿五日 發行
定價 一部金一錢五厘外ニ郵税五厘
廣告料五號活字十九字請一行金十五錢回
發行所 福島縣石城郡平町字白銀町二番地
編輯人高木朝雄 發行人吉田禮次郎 印刷人高木朝雄

Table with multiple columns listing names and categories, likely a roster or index for a school event. Includes names like 眞木正之, 伊藤行真, etc.

石城郡の入替者 (二)
○歩兵のつぎ
四倉町 門馬太郎 遠藤清蔵 菅波友次

不實な女房
石城郡神谷村鈴木久治の
女房ふみ(九)は夫婦の間に三人の子まで

警城中學運動會
平町なる警立警城中學校にては去る十八日
八幡小路の同校運動場にて行はれたり

海軍兵隊
○中隊隊旗
○中隊隊旗
○中隊隊旗

悔 (上)
失敗の中に逃出した自分は、
失敗の中に逃出した自分は、

悔 (下)
失敗の中に逃出した自分は、
失敗の中に逃出した自分は、

海軍兵隊 (續)
○中隊隊旗
○中隊隊旗

海軍兵隊 (續)
○中隊隊旗
○中隊隊旗

海軍兵隊 (續)
○中隊隊旗
○中隊隊旗

南平町 賀澤眼科醫院

砂糖問屋
大日本精糖株式會社
特約販賣店
平町新川町
吉田屋定太郎

銘泉 田村郡
小泉庄吉
酒川 元 小野新町

和洋粉問屋

醬油味噌釀造
新來食鹽販賣
新聞雜誌取次
磐城國石城郡
窪田村勿來
安嶋富吉

甘藷青物果物問屋
產業組合品一手販賣
平町四丁目角
吉田五郎
(電話ヨシ五)

乾物荒物煙草洋酒罐詰
味噌其外大勉強販賣

五丁目 遠藤齒科醫院

一平町 星野齒科醫院

眼科專門 中嶋眼科醫院
磐城平町紺屋町

徵兵適齡者並に學校生徒には治療料輕減の規定あり
殊に貧困者には無料にて治療の規定あり

産科 外科 婦人科 鈴木醫院

諸國陶磁器相馬瀨戸
漆器挽地物卸小賣
平町走丁目
久武田商店
高号相模屋



磐城平町新川町
小泉石杖營業所
主 長 白黒
任 長 土木
白黒 房
土木 龜
房 吉
龜 教

小泉石杖營業所

松崎長三郎

新聞雜誌書籍卸賣業

平陽社

磐城平吉田禮次郎謹製

吉田家傳

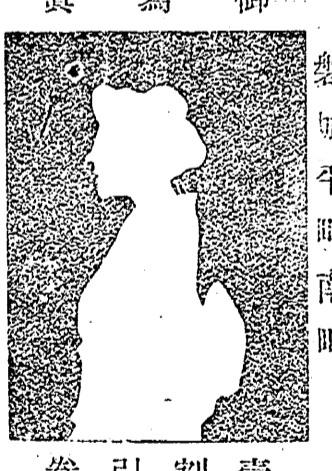


第八號

每月三回 五日 十五日 廿五日發行
定價一部金一錢五厘外郵稅五厘
廣告料五號活字十九字行金十五錢
發行所 福島縣石城郡平町字白雲町二番地
編輯人 吉田禮次郎 印刷人 高橋屋

俳句
木犀に自秋の三年わすれしな 柳水
此腹の栗飯にかくふくれけり 同
栗飯や市井に遠きたもひわり 同
馬市の人まはらなりあきの雨 同
奥郡城は思ひは失せて秋の雨 同
秋の羽物思ふ身を夜更かな 同

り唱へしものか、或は別立ど全時に稱へし
ものか、或は中途より附會せしものなるか
、更に文獻の微すべきものなきを以て其起
源を知る能はざるも、假りに大同二年(西
曆八百零一年)本山創立の際より起れるもの
定むるも、未だ千百年に過ぎず、此千百年
の歲月は人生の一代より考ふれば誠に悠久
の歲月なれども、其地獄の年輪より考ふれば
赤井山在西北二里外、山頂有寺、夜見除



御寫眞
券引割壹
青木寫眞館

店員入用
年齢十五六歳にて普通教育ある
者一名至急入用に付希望の者御
來談あれ
荒物磁器類 平町四丁目
應表船道具類 阿部唯次郎
應表船道具類 阿部唯次郎

御名入蓋調製
品質精練焼付保證
平町四丁目
紀念堂 鈴木

赤煉瓦
佐々木忠右衛門
石城郡好間川中子

赤煉瓦第二工場
瓦工場

雜貨 卸商
洋酒罐詰

陶磁器
松崎長三郎